

暮らしの俳句

TV番組の「プレバト」に人気があります。木曜日の午後七時から、TV界の色々な分野の出演者が俳句を作って競う番組です。俳人の夏井いつき先生の歯に衣着せぬ酷評も飛び出す添削が、素人にもわかりやすく、楽しい勉強になるひと時です。

皆さんも、日々の暮らしの中で俳句に挑戦してみませんか。最初は自己満足の世界でもいいと思います。五・七・五の十七文字に思いを託するって、素敵だと思いませんか。そのうち自己満足に物足らなくなったら、新聞や雑誌に投稿する。また、有料の講座や同人に参加するなど考えていけばいいのです。公民館でも講座を開催していることがあります。

季語の辞書「歳時記」を買って、さあ、俳句に挑戦して見ましょう。

今年も高9回卒の西堀寛厚さんから寄稿していただきました。

句作二十年

西堀 寛厚

私が俳句を作りはじめたのは、平成十四年の七月で六十三才の時でした。今は八十三才ですから、今年で二十年になります。

最初の七年間は、京都新聞俳壇に投句していましたが、その後（平成二十一年以後）今のホトトギスに代えました。

今回、この二十年のうち初めの七年間に作った分で、京都新聞入選句から選んでみました。

○入選第一席 一句

電線の意外に太し星月夜
雲量の三分ほど雁帰る

○入選第二席 四句

春寒く狩人の鼻細かりき
彼岸まであと旬日の入日かな
秋風や赤絵蓋物売れゆきし
役員らささめき合ふや神の留守

○入選第三席 二句

おしなべて白とも云へず雪の原
うち濡れてふと懐かしき夏の雨
故郷へバスの右手は秋の潮

○佳作入選七十四句から十一句

歌詠みの人と語りぬ春立つ日
風騒ぐ裏の竹やぶ春近し
竹林の途切れしところ寒椿
天神の雪解零のしきりなる
咲き初めし花の月夜となりけり
ゆるやかに曲る林道暮の春
暮沈む天王山の立夏かな
竹の秋深き一院日の暮るる
あと三日秋の立つ日待つ夜かな
国鉄と云ひし鉄道の霜白し
塔といふものの訝かし冬の空

以上二十句を選びました。

（民芸陶工）



平成16年 俳句
作り始めた頃の写真

子どもは地球の宝！
守り育てよう！



赤ちゃんから
大人まで
安心してご利用頂けます

医薬部外品 薬じゃないけど常備薬

液体歯みがき

歯みがき剤

【プレミアムナチュラル プレミアムジェル】

株式会社 やくそうの島 天草社

熊本県天草市浄南町 59-3 TEL(0969)24-3697



ALIGRIA
〒863-0001
熊本県天草市本渡町広瀬996
TEL.0969-22-3161
http://www.hotel-aligria.jp